

もう一步！な点

もっと、カイニヨや農業に焦点をあてたプログラムがあるとよかった

- ・もっと、散居村の生活が知りたかった。新しい家も見たかった。
- ・散居村の中の寺や神社を歩きたかった。村の構成、老人など世代の役割。寺、神社との関係、お祭り、遊び、近所の範囲と付き合い方。四季の暮らし等を知りたかった。
- ・全国の合鴨農法の実施状況、あれだけ頑張ってもなぜそれだけで農業を生業として成立たせることが難しいのか、知りたかったです。農業政策、減反政策などが背景にあり、これが、カイニヨの保存にも深くかかわってくると思います。田園風景を守ることは日本の農業政策をどうするか、ということと不可分だと思うので、そこまで踏み込んだお話もあってもよかったかもしれません。
- ・カイニヨの最高のお家をもっと見せて欲しかったです。

楽しいカイニヨでのライフスタイルを見たかった

- ・富山の人には実直で勉強熱心なんだろうなあ。事務局の方の想いはよく伝わってくんだけれど、硬派で楽しさ・面白さがないように感じてしまいました。
- ・事務局の人たちも、もっともっと話に加わったらどうでしょう。それぞれのお仕事や生活から見たカイニヨについてももう少しお話できたら良かったなと思います。
- ・かたくなにカイニヨを守る姿は、真面目すぎて息苦しい印象もあった。カイニヨの家に住むことがハッピーだという印象がない。

体験型のプログラムがあると良かった

- ・荒田さんのお話は面白かったけど、お話は半分以下にして、田植えとか稲刈りとか、おやつ作りとか、なにか一緒にきることがあったらいいなと思う。
- ・今後も続けるなら「田植え」体験なども組み込んでもいいかもしれません。実は私は、田植えも稲刈りも一度もしたことがありません。都会生活の人にとっては、「田植え体験」は、とても新鮮だと思います。田植え体験 希望者は、1キロ何千円か前払いして、自分が植えた田んぼのお米を収穫後送ってもらうといった企画も楽しいかもしれません。
- ・話ばかり聞いていると飽きてしまいます。

多様なニーズに対応できるゆとりやオプションがあると良かった

- ・当日のスケジュールは終わりなんだけどこういうのもありますので物足りない人はこの車で見学してきてください！というようなオプションもつけると面白いかもしれません。
- ・参加人数が多かったかもしれません。

「特別な」ツアーであるとよかった

- ・チューリップ公園は、いつでも、誰でも行ける。こういうツアーでしか味わえない場所に案内して欲しかったし、こういうツアーでしか会えない人に会いたかった。砺波にも探せばいるはずです。
- ・強烈なポイントとなる物だけ見せて、自由時間があるというツアーもよい。
- ・チューリップフェアは、とてもキレイだったのですが、2日目解散後、希望者が行くという形でもよかったかもしれません。

「もてなし」の心が不足していた

- ・「もてなし」という言葉を考えてみてください。人をもてなすことがどれだけ難しいことかは、今回のことでお分かりだと思います。次回のバージョンアップした「カイニョ」を楽しみにしています。これが最高の「カイニョ」を見せてください。
- ・自己満足に終わっては駄目です。
- ・事務局の人がお客さんより地元を気にしているような感がありました。

食には重点をおく

- ・初日のお昼ご飯は少し淋しかったです。地元で個人のお弁当屋さんを探すなどしたほうがいいかもしれません。ホッカホカ弁当でもサブで小さくてもいいから郷土料理を足すだけでずいぶん違います。食は、記憶に残るものなので大切にしたいほうがいいです。

場の演出に配慮

- ・宴会の席の設定ですが食事は食事で終わらして呑みは丸くなって酒を囲むとか・・・もうちょいコミュニケーションとれたらなと思いました。
- ・立派なお屋敷で、いいお宿を提供して下さったと思います。運用上の細かなことですが、女性の部屋が真中だったので（男性の通路になっていた）着替えのときに、ちょっとお互い困りました。

宿泊機能の充実、宿泊施設の確保

- ・もし今後、カイニヨのある屋敷を有料の宿泊施設とするなら（下記のように）、洗面所があったほうがいいかもしれません（トイレは汲み取りでも OK）。ただし新設するとしても、ピカピカのユニットみたいものではなく、タイルでクラシックにつくるなど、屋敷やカイニヨに溶け込むようなものがよいと思います。

カイニヨの活用法

カイニヨの認知度を上げることにより、
暮らす人がいきいきと暮らし、誇りを持てる仕組みづくり

- ・散居村&カイニヨの認知度を上げるそこで暮らす人が誇りを持てるようにする（小布施のように伝統ある空間を守る”核”となるのは、住民の誇りではないでしょうか。）必要があるのではないのでしょうか。保存運動の気運を盛り上げることや経済効果も期待することが重要です。

空きカイニヨの活用

- ・住む人がいなくなった屋敷があれば、改築などせずに都会に疲れたIターンUターン者、外国人などに貸して住んでもらうのはどうでしょうか。でも、新住民には家や林の手入れや生活の知恵などが無いので昔からの知識を蓄積しておく嬉しいです。
- ・去年山形県酒田市に行った時、かやぶきの農家をそのまま残して地元の食材を使った炭火焼が食べられるお店がありました。「梅原邦荘」みたいな絢爛豪華ピカピカよりはちょっと地味な生活感ある雰囲気、目の前の炭火で自分で焼いて食べるのです。幹線道路からずーっと外れた山奥にあるのに結構行ってました。朝のシャケに大感激した私は、砺波にもそんなお店があればいいなと思ったのでした。
- ・カイニヨに囲まれた屋敷を宿に白川郷の合掌作りみたいに、使われていないカイニヨのおうちを可能な範囲で宿泊施設にする全国に知られるきっかけになるかも？
 - 案1 <観光客向けの宿泊施設>
散居村を楽しむ&八尾を歩く～観光客向けに
 - 案2 <子供たちの農村体験>
子供たちに、農業体験してもらおう。その宿は、カイニヨのある古い屋敷
- ・カイニヨ&屋敷をレンタル
 - 使っていないお屋敷を、積極的に貸し出す。こだわりエコライフスタイルの人に貸す雑誌などで紹介される 認知度アップ&ブランド価値が上がる・・・といった効果が期待できる？居住者向けだけでなく、最後に昼食をいただいた所のように日本料理店向けの貸し出しを広げてもいいかと思います。

教育、総合学習、農業、地域とカイニョの連携

- ・学校で地域学習や総合的学習に取り入れられていますか？お年寄りしか住んでいない家は林の手入れが大変だから小学校～高校生たちで落ち葉集めのボランティアが出来ますね。落ち葉で堆肥づくりや間伐材で紙透きなど、授業でも使えますよ。何より学校と地域の連携にもなります。
- ・農業土木的、郷土歴史的な見地だけでなく、まちづくりや学校教育、商品価値としてもカイニョは砺波の資産だし、住んでいる人も外から来た人も、いきいきするような雰囲気が必要ですよね。

カイニョ保存サポーターの会の発足

- ・年会費5000円ほど。会員の特典は、年4回ほど、季節毎のカイニョ便りが届く。荒田さんの田んぼでの「田植え」と「稲刈り」体験のご案内をもらえる（参加は有料）。年1回、1泊、カイニョ体験ツアーの折に、カイニョのおうちに泊めてもらえる（食費・参加費は別）毎年、「水」「樹木」「田」「草」「土」「花」などをテーマに、カイニョを深掘りする（毎年のツアーのテーマと連動）。同時に、どこかの家、カイニョ、などを定点観測して、変化を観察する。

メディアでの露出を図り、問題提起

- ・「失われつつある田園風景、カイニョと共に暮らす人々」といったタイトルで、雑誌で発表。「ナショナル・ジオグラフィック」とかに売り込むのはどうでしょう？地元テレビで特集番組を作ってもらおう。あるいは、地元新聞はもちろん、時事通信や共同通信、また朝日、毎日、読売など全国紙の地方支局の記者にも、ツアーのときなど折にふれて取材してもらおう。
- ・田園都市空間という文化財？を保存していくために、政府の政策に矛盾があれば、シンクタンクやジャーナリストを巻き込んで問題提起をしていく。
- ・カイニョを「世界遺産」へ名乗りをあげる？
（マスコミに対する備考）
- ・東京からきた記者などは、カイニョの深い意味があまりわかっていない可能性もあります。資料を揃えて郵送するなり、知人のツテを辿って会って説明するなりする（無論、会う方がベターですね）といいかと思えます。その折に、先日、富山新聞などで出た記事を添えるといいと思えます。それがプレス用資料となりますので。次につなげて展開する意味でも、今回新聞で取り上げてもらったのは、大きかったですね。

建て替えに関して、緩やかな規制

- ・住民のコンセンサスができた上での話ですが、カイニヨの伐採、屋敷の建て替えに関して、「景観を損なわないように」といった緩やかな規制をもうける。修復・保存に関しては、申請すれば、補助金がもらえる、などの制度をつくることはできないでしょうか。

(2) 事務局意見のまとめ (5月12日の意見交換会から)

地域の資源(カイニョ、人材(財))を紹介し、体験し、交流できたことがよかった

- ・地域の外の交流が生まれたと同時に、地域内での交流もうまれました。
- ・スタッフをはじめ、協力者が、地域や、自分の技、生活スタイルを紹介することで、いきいきと楽しそうでした。

遠いところから若い人にも来てもらい、散居村を紹介できた

- ・散居村の眺め、カイニョ、カイニョに住む人を紹介し、宿泊や、郷土の料理、地酒によって、砺波を体験してもらえたということに意義がありました。
- ・山口県や大阪、東京、長野など遠方から来てもらえた。若い人も多く、ニーズがあることが確認できました。

いろいろなカイニョやアツマダチを紹介、体験するしかけが必要だった

- ・高田家のカイニョだけでなく、よい例、悪い例、新しいもの(増改築例)など、多くのカイニョやアツマダチとその背景にある文化を紹介できればよかったです。

スタッフ自身が地域を知る機会になった もっと知ろう

- ・ツアーの準備を通して、地域の資源、人材(財)を知る機会になりました。
- ・プログラムの充実、質の向上のためにも、スタッフが地域(地域資源、人材(財))をもっと知っていると、ツアーにプレミアムがつきます。

ビジュアルによるレクチャーがあるとなおよかった

- ・話だけではなく、ビデオやスライドを使って、視覚的にうったえるレクチャーもすべきでした。

時間配分、プログラム内容に工夫が必要だった

- ・1日目は雨であったこともあり、室内でのレクチャーが長く、若干、緩慢な時間とプログラムの配分でした。
- ・参加者の興味に応じたオプションツアーを用意したり、ポイントだけを絞って、あとは自由時間というフリーなプログラムもあつたらよかったです。

ボランティアである限り、サービスレベルの限界を感じた

- ・もてなしの心が不足しているとの意見もありましたが、ボランティアで運営をしている限り、サービスレベルに限界を感じました。

4. カイニョリズム体験ツアー推進の課題

課題1 カイニョでの楽しいライフスタイルを演出

- ・ 富山県人は良くも悪くも真面目で実直。カイニョでの生活が、ハッピーなものでないとい体験ツアーも面白くないし、我慢だけでは、カイニョは残りません。
- ・ カイニョで暮らす人が誇りをもって、生き生きと楽しく暮らす仕組みづくりが必要です。

課題2 地域資源・人材の発掘と保存と活用

- ・ まず、地域の人々が地元の隠れた、資源、人材を発掘する必要があります。
- ・ それをただ保存するだけでなく、どんどん活用する必要があります。この際に、魅力ある体験ツアープログラムの提案や、楽しいライフスタイルを提案し、育てるなどのマネジメントが重要です。

課題3 受け入れ体制の確保

- ・ カイニョリズム体験ツアーにより、ニーズの把握を行うことができました。公的な受け入れ施設の整備も視野にいた、受け入れ施設の確保が望まれます。
- ・ 民泊受け入れ希望者の受け入れスタイルを詳細に把握する調査を行うと同時に、データベースを作成することによって、多様なニーズへ対応することが必要です。（宿泊可能日数・曜日、宿泊スタイルを素泊まり、料理付き、休憩のみにわけるなど）
- ・ 確保した受け入れ先の運営、管理、斡旋などを行うと同時に民泊の成功例となるビジネスモデルの育成が必要です。

課題4 体験ツアー、プログラムの充実

- ・ カイニョの風景を眺めるだけでなく、周辺市町村との連携によって、多様化、高度化している旅行ニーズに対応できる充実したプログラムの提供が必要です。
- ・ ボランティアでは、ツアーのサービスレベルに限界があります。カイニョ・ツーリズムによって、副収入を得られるような、コミュニティビジネスの育成を念頭におく必要があります。コミュニティビジネスとしての郷土料理や体験プログラムを充実させ、レベルアップすることによって、多様化、高度化しているツアーニーズに対応する必要があります。

課題5 CI、PRなどによるカイニョブランドの確立

- ・ 砺波の散居は、散居村の広さ、散居民家戸数が日本一ですが、全国的な知名度はまだまだ低いのが現状です。カイニョの保存と、住んでいる人のステータス向上のために、CIづくりなどによって、カイニョブランドを確立し、様々な広報媒体によって体験ツアーやカイニョをPRする必要があります。

5 . カイニョイズム構想

(1) カイニョイズムとは

何か地域でやってみよう。ということで、カイニョ・ツーリズム(カイニョリズム)を企画、実施してみました。この結果、今後、カイニョリズムを推進していく上での課題が、いくつか把握できました。

また、一方で、とにかく「何か」をやってみると、例えそれが体系的に進められていなくても、「何か」が発見できるものだと感じました。

カイニョの体験ツアーは、カイニョの保全策の一つです。それと同時に、砺波で住む人が豊かで楽しく暮らすための一つの手段でもあります。

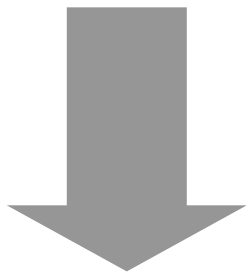
ツアーを通して、砺波にはカイニョだけでなく、それを取り巻く環境も面白いものがあるということに気が付きました。

カイニョは、砺波のシンボルです。砺波の豊かなライフスタイルがカイニョを守ってきました。カイニョを守ってきたのは、カイニョを取り巻く砺波の文化、歴史、食文化、農業、祭り、人などなどの要素です。カイニョの保全と同時にそれらも大切に、活用していくべきではないかと思い始めました。

そこで、カイニョイズムという造語を考えました。カイニョイズムとは、カイニョだけでなく、カイニョを取り巻くものすべてを保全するだけでなく、新しい価値と意味と物語を付けて活用し、後世に伝えるという動きです。カイニョを残すことはもちろん大事ですが、カイニョやカイニョを取り巻くライフスタイル自体を楽しく、演出し、**カイニョの砺波に住まう老若男女が、日々の生活に生きがいと役割をもっていきいき生き、誇りを持って住み続けられる地域づくり**が一番大事なことはないかと思い始め、砺波のカイニョとの豊かなライフスタイルの実現のために**カイニョイズム構想**を立案しました。

(2) テーマとプロジェクト体系

- テーマ -
 カイニョの砺波に住まう老若男女が、
 日々の生活に生きがいと役割をもっていきいき
 生き、誇りを持って住み続けられる地域づくり



- 目標 1 : カイニョイズムの推進による地域づくり・人づくり
 目標 2 : カイニョの保全と活用による循環型地域づくり
 目標 3 : カイニョイズムによるにぎわいの創出
 目標 4 : カイニョブランドの確立



: 太枠は重点プロジェクトとして位置づける

(3) テーマ

カイニョの砺波に住まう老若男女が、
日々の生活に生きがいと役割をもっていきいき生き、
誇りを持って住み続けられる地域づくり

散居村の景観は美しく、日本の原風景であり、景観とそこで織りなされる豊かな生活文化は、私たちが後世に伝えたい財産です。しかし、景観を構成しているひとつひとつの要素であるカイニョや、郷土料理、祭りなどは、生活スタイルの変化や価値観の多様化などにより、残りにくくなっている現状があります。

カイニョは、愛でるだけでは残りませんが、がまんだけでも残りません。カイニョは、砺波地方における生活文化のシンボルです。この保全と活用はもちろんのこと、そこで営まれる生活文化を豊かに演出する必要があります。カイニョでの生活をいきいきと楽しく、誇りを持って過ごすことが、カイニョの保全に繋がると同時に、砺波での私たちの豊かな生活スタイルの実現になります。

(4) 目標

目標1 カイニョイズムの推進による地域づくり・人づくり

カイニョは、砺波の歴史、生活文化の現れであり、砺波のシンボルです。カイニョイズムとは、シンボルであるカイニョとカイニョをとりまく砺波地方の自然、文化、歴史、生活スタイルを再認識し、活用し、ライフスタイルを提案する取組みを指します。

カイニョイズムの推進として具体的には、地域住民を対象としたカイニョの勉強会や郷土料理の勉強会を開催、地域資源を活用したコミュニティビジネスの育成などが考えられます。これらの活動を通して、地域を知り、地域に愛着と責任感を持つ人を育て、いきいきと楽しく生活できる地域づくりを行います。

目標2 カイニョの保全と活用による循環型地域づくり

燃料資源としての役割を終えたカイニョを保全するだけでなく、新しい価値や意味、役割を見出し、そこでの生活を豊かに演出することができれば、散居の砺波での豊かな生活が実現するのではないのでしょうか。

里山が地域のバイオマスエネルギー源だったのと同様、かつては、カイニョもバイオマスエネルギー源でした。現在、環境問題が大きな課題として取り上げられている中で、スンバなどのエネルギー源を利用した、循環型地域を目指します。

目標3 カイニョイズムによる賑わいづくり

カイニョとカイニョをとりまく砺波地方の自然、文化、歴史、生活スタイルを再認識し、ライフスタイルを提案する取組みの推進をとおして、地域内での人の交流と物の交流をつくり、さらに地域外の人と物の交流をつくり、地域内と外が一体となった賑わいをつくりたい。例えば、カイニョでの生活を紹介するグリーン・ツーリズム（カイニョリズム）を行い、都市住民との交流による賑わいをつくりたい。

また、グリーン・ツーリズム（カイニョリズム）を経済的に成り立つようにしたり、高齢者による郷土料理レストランをつくるなど地域にある資源や人材（財）を活用して、地域に密着した事業活動（コミュニティビジネス）を育てることによって、賑わいをつくりたい。

目標4 カイニョブランドの確立

砺波平野に残る散居村は、広さや散居民家戸数から、日本一とされていますが、認知度があまり高くないのが現状です。わかりやすく、親しみやすいカイニョブランドを確立して、いろいろな広告媒体を利用したPRによって、イメージづくりが必要です。

(5) 方向性とプロジェクト

方向性1 老若男女がいきいき暮らすカイニョでのライフスタイルづくり

カイニョイズム研究所の設立(重点プロジェクト)

設立主旨

砺波に住まう老若男女にとって、カイニョ、砺波での生活をハッピーなものにするための活動を行う、カイニョの空き家を利用したカイニョイズム研究所を設立します。

機能

「カイニョイズム」を、単なるカイニョの保存と活用ではなく、カイニョをとりまく砺波地方の自然、文化、歴史、生活を再認識し、ライフスタイル提案する動きととらえ、砺波の人材(財)、地域資源、文化、食文化、歴史、教育・・・などを紹介、活用するプログラムを企画し、実行する機関します。(NPO?)

具体的な事業例

- ・ 砺波の地域資源や人材(財)を活かしたコミュニティビジネスのプロデュース、実験などを行います。(郷土料理レストラン、レストランと連携した独居老人への弁当宅配サービス、農業、カイニョ体験教育プログラムの販売など)
- ・ ペレットなどカイニョを活かした循環型エネルギーの研究
- ・ 体験ツアーのための都市住民ニーズ調査、宿泊受け入れ先データベースの作成管理、斡旋
- ・ 空き家のニーズ調査、データベースの作成、斡旋
- ・ カイニョに関する技術的な研究と相談窓口、造園業者の斡旋など

カイニョイズムのイベント実施

地域の人が地域の資源を楽しみ、カイニョイズムを推進するようなイベント(特産品販売、シンポジウム、交流会などなど楽しいもの)の企画、運営を行います。

カイニョイズム講座の実施によるカイニョサポーターの育成

カイニョのこと、砺波のこと(歴史、文化などなど)を、まずは地元の人によく知ってもらうための年間を通した講座を企画、実施します。

この講座を通して、カイニョに住んでいない人にとっては、カイニョが共有の財産であることを認識できるようにし、カイニョに住んでいる人は、誇りを感じられるようにします。カイニョと砺波に愛着、誇りを持つカイニョサポーターを育成します。

方向性2 エコのカイニョの保全と活用

カイニョの保全講座の開催

カイニョを持つお宅で、手入れの方法などについて疑問を持っている方たちを対象とした、保全講座を開催します。カイニョを持たない家の参加者も対象とし、一人暮らし世帯のカイニョの手入れを手伝うカイニョサポーターを育成します。

カイニョ保全・増改築相談窓口の設置

カイニョの手入れについて、アズマダチの家の増改築について疑問を持っている方も多のですが、どこに相談したらよいかかわからないという現状があります。このようなニーズに対応する相談窓口を設置します。相談窓口では、カイニョに関する補助制度や、事業についても説明、アドバイスを行います。

エコのカイニョの活用拠点施設の整備（重点プロジェクト）

昔は、一家の燃料（お風呂、炊事、暖房）として活用されてきたカイニョ。カイニョは、循環型社会のシンボルでした。再生可能燃料であるカイニョの保全と新しい価値、意味づけを行うために、スンバのペレット化の研究や販路の開拓を行います。

カイニョが循環型社会での役割をもう一度果たすために、**現在、田園空間整備事業で計画中のコア施設を、バイオマスエネルギーの活用モデル施設としての整備を検討してもらうように働きかけます。**ミニ・バイオマスステーションとして、ペレットなど、木質系バイオマスエネルギーを使ってご飯を炊いたり、スンバを利用した五右衛門風呂などをつくり、カイニョでのエネルギーの循環を体験できるような整備を行います。

整備主旨

再生可能燃料であるカイニョの保全と新しい価値、意味づけを行うための研究、循環型エネルギーを体験ができる施設とし、バイオマスエネルギーによる循環型社会の実現をめざします。

具体的な機能、活動内容

- ・ペレットの実用化、販路の確立などの研究
- ・施設内でペレットを作ったり、ペレットを使って炊いた炊飯を食べたり、五右衛門風呂に入ったりすることによって、子どもたちも目に見える、体験できる循環型社会の推進
- ・スンバの回収 ペレット化を推進し、地域循環システムの構築

方向性3 カイニョ・ツーリズムの実施

地域資源の発掘と活用 魅力ある体験プログラムの作成

体験プログラムを充実したものにするために、まずは、地域の人がフィールドワークなどをおして、地域資源、人材（財）の発掘を行い、マップなどにまとめ、プログラムを作成します。

カイニョ・ツーリズムニーズ調査

近県、首都圏の住民を対象としたカイニョや、体験ツアーに関する調査を行い、ニーズにあったカイニョ像や体験ツアーを模索するとともに、今後のカイニョや生活文化の保存、活用方法に反映します。

受け入れ施設のデータベース作成

民泊受け入れを希望とするカイニョの家を調査し、データベース化します。宿泊の可否だけでなく、体験、休憩のみなど来訪者の多様なニーズが反映できるようなデータベースを作成します。

カイニョ・ツーリズム市民ツアーコンダクターの育成

方向性1の のカイニョ講座の受講により、カイニョサポーターから、市民ツアーコンダクターを育成し、高齢者や子どもの活躍の場を作ります。

方向性4 カイニョ・ツーリズム基盤づくり

体験・飲食・宿泊・情報提供機能をもつ拠点施設の整備

田園空間整備事業のコア施設を新設する際に、カイニョに関する展示を行うだけでなく、多様な機能を持つ施設として整備します。現在不足している、宿泊機能や砺波の食文化を提供する飲食機能などがあると同時に、スンバでご飯を炊いたり、五右衛門風呂を炊くなど、カイニョやエネルギーの循環を体験できる施設とします。飲食、体験分野では、地域の技のある高齢者に活躍してもらいます。

また、拠点施設では、体験ツアーのプログラムや、民泊のデータベース管理、運営を行います。宿泊や、体験プログラムの紹介希望者を斡旋するインフォメーション機能も持つ施設とします。

コミュニティビジネスの育成・支援

カイニョ・ツーリズムのサービスレベルを向上するためには、カイニョ・ツーリズムによって、副収入を得られるような仕組みづくりが必要です。

また、老若男女、特に高齢者などがその能力（料理とか、手仕事、畑仕事など）を活かして、いきいき暮らすためにも、カイニョを残すためにも、副収入などの経済的なメリットが生まれるシステムを作る必要があります。

郷土料理農家レストラン・喫茶店、独居老人への弁当宅配、カイニョ・農業体験教育プログラムの作成、スンバ燃料の実用化と販路育成、民泊などカイニョや、砺波の資源、人材を活用したコミュニティビジネスを育成するとともに、その支援が必要です。

県外カイニョファン倶楽部の組織・育成

県外のカイニョファン倶楽部を組織します。サポーターに対して、カイニョについての情報発信を行い、理解や協力を得ることによってカイニョの保全に繋がります。また、定期的な会報誌やメールを発信し、体験ツアーや産直の情報を提供することによって、リピーターを増やして交流を促進し、賑わいをつくります。

方向性5 イメージ戦略の展開

PR、情報発信の実施

魅力あるカイニョでのライフスタイルを演出、カイニョの保存と活用を行うために、カイニョに住む人は、ステータスを感じられるように、また、カイニョに住んでいない人は、カイニョを市民共有の財産と感じられるように、情報提供をする必要があります。

このために、口コミ、ホームページの作成、情報誌の作成、マスコミ媒体などへの発信などを行います。

CIによるカイニョブランドの育成

カイニョを全国に発信し、全国的な認知度を向上するために、覚えやすく、親しみやすいCIを作り、ブランド化を図ります。

(2) 田嶋さんのメニュー (田嶋さんの手書き)



田舎の煮しめ



竹の子の味噌煮



しその実のよごし



いもじのよごし



ずきカンピョウの白和え



ワラビの酢味噌和え



ゆべし



山菜の天ぷら



鮎

他、荒田さんのご飯、お刺身、岩魚の骨酒、など



(3) 新聞記事
富山新聞 (平成 14 年 5 月 5 日)

北日本新聞 (平成 14 年 5 月 4 日)